

(様式)

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」  
(SciREX 事業) データ・情報基盤 第 3 期中期計画

1. 機関名／責任者氏名（所属機関・役職）

機関名：科学技術・学術政策研究所（NISTEP）  
責任者氏名： 大山 真未

2. 中期計画期間

令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日

3. 第 3 期期間（R3～R7 年度）において達成すべき目標・計画

< 第 3 期期間における目標及び取組 >

- ・これまで体系的かつ継続的に整備してきたデータ・情報基盤を更に有効活用していくために、今後も持続的な整備を行っていく。具体的には、機関名辞書、企業名辞書等について名寄せプログラムの外部公開、コアユーザーへのヒアリング、AI 技術を活用した整備等、科学技術白書検索／科学技術基本政策文書検索やデルファイ調査検索等の更なる利用促進等の取組を実施していく。
- ・新たなデータ・情報基盤整備については、科学技術・イノベーション基本計画の推進、フォローアップ、検討等に資するよう、データを継続的に取得し、オープン化・見える化を進める。具体的には、博士人材追跡調査について行政当局のニーズ等に応える新たな調査手法の研究開発等、定点調査について調査項目の継続的な見直し等の取組等を実施していく。
- ・本事業全体の目的を再認識し、関係機関の一員として、行政側への単なる研究成果の引き渡し、情報共有という段階を越えて共進化に貢献していく。

< 目標設定の考え方や論拠 >

- ・ SciREX 事業データ・情報基盤第 2 期中間評価自己評価報告書等を踏まえ目標を定めた。

< 事業終了以降の活動方針 >

- ・ NISTEP の本来の調査研究とデータ・情報基盤を、一体的に NISTEP で運用していく。その運用に当たっては、共進化実現プログラム等の SciREX 事業全体の成果も生かして行政との連携を強化していく。

4. 事業終了後を見据えた計画

- ・データ・情報基盤の整備について、幅広い分析の基礎となるデータの整備を継続し、NISTEP の調査研究機能を強化し、様々な分析やより深い分析を可能とし、政策当局や外部機関等との協力や連携を進める。
- ・ NISTEP の調査研究成果を科学技術・学術審議会等で広く活用していただけるよう努める。

## 5. 事業終了以降の科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」への関わり方の展望

- ・ NISTEP の本来の調査研究とデータ・情報基盤を、一体的に NISTEP で運用していく。その運用に当たっては、共進化実現プログラム等の SciREX 事業全体の成果も生かして行政との連携を強化していく。

## 6. 年度計画及び達成目標

R3 年度	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関名辞書、企業名辞書等について名寄せプログラムの外部公開、コアユーザーへのヒアリング、AI 技術を活用した整備等を実施。</li> <li>・ 科学技術基本政策文書検索を公開。科学技術白書検索やデルファイ調査検索等の更なる利用促進等の取組を実施。</li> <li>・ 2021 年度修士課程修了予定者調査を実施。博士人材追跡調査について、博士人材データベースをはじめとする他の人材関連の調査や統計も含め、行政当局のニーズ等に応える新たな調査手法の研究開発等を実施。</li> <li>・ 定点調査について調査項目の継続的な見直し等を実施。</li> </ul>
	達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで体系的かつ継続的に整備してきたデータ・情報基盤を更に有効活用していくために、今後も持続的な整備を行っていく。</li> <li>・ 新たなデータ・情報基盤整備については、科学技術・イノベーション基本計画の推進、フォローアップ、検討等に資するよう、データを継続的に取得し、オープン化・見える化を進める。</li> <li>・ 本事業全体の目的を再認識し、関係機関の一員として、行政側への単なる研究成果の引き渡し、情報共有という段階を越えて共進化に貢献していく。</li> </ul>
R4 年度	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関名辞書、企業名辞書等について名寄せプログラムの外部公開、コアユーザーへのヒアリング、AI 技術を活用した整備等を実施。</li> <li>・ 科学技術白書検索／科学技術基本政策文書検索やデルファイ調査検索等の更なる利用促進等の取組を実施。</li> <li>・ 博士人材追跡調査について、2012 年度・2015 年度・2018 年度の博士課程修了者のコホート調査等を行うとともに、博士人材データベースをはじめとする他の人材関連の調査や統計も含め、行政当局のニーズ等に応える新たな調査手法の研究開発等を実施。</li> <li>・ 定点調査について調査項目の継続的な見直し等を実施。</li> </ul>
	達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで体系的かつ継続的に整備してきたデータ・情報基盤を更に有効活用していくために、今後も持続的な整備を行っていく。</li> <li>・ 新たなデータ・情報基盤整備については、科学技術・イノベーション基本計画の推進、フォローアップ、検討等に資するよう、デー</li> </ul>

		<p>タを継続的に取得し、オープン化・見える化を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業全体の目的を再認識し、関係機関の一員として、行政側への単なる研究成果の引き渡し、情報共有という段階を越えて共進化に貢献していく。</li> </ul>
R5 年度	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関名辞書、企業名辞書等について名寄せプログラムの外部公開、コアユーザーへのヒアリング、AI 技術を活用した整備等を実施。</li> <li>・科学技術白書検索／科学技術基本政策文書検索やデルファイ調査検索等の更なる利用促進等の取組を実施。</li> <li>・博士人材追跡調査について、2021 年度コホート調査等を行うとともに、博士人材データベースをはじめとする他の人材関連の調査や統計も含め、行政当局のニーズ等に応える新たな調査手法の研究開発等を実施。</li> <li>・定点調査について調査項目の継続的な見直し等を実施。</li> </ul>
	達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで体系的かつ継続的に整備してきたデータ・情報基盤を更に有効活用していくために、今後も持続的な整備を行っていく。</li> <li>・新たなデータ・情報基盤整備については、科学技術・イノベーション基本計画の推進、フォローアップ、検討等に資するよう、データを継続的に取得し、オープン化・見える化を進める。</li> <li>・本事業全体の目的を再認識し、関係機関の一員として、行政側への単なる研究成果の引き渡し、情報共有という段階を越えて共進化に貢献していく。</li> </ul>
R6-7 年度	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関名辞書、企業名辞書等について名寄せプログラムの外部公開、コアユーザーへのヒアリング、AI 技術を活用した整備等を実施。</li> <li>・科学技術白書検索／科学技術基本政策文書検索やデルファイ調査検索等の更なる利用促進等の取組を実施。</li> <li>・博士人材追跡調査について、2012 年度・2015 年度・2018 年度・2021 年度の博士課程修了者のコホート調査等を行うとともに、博士人材データベースをはじめとする他の人材関連の調査や統計も含め、行政当局のニーズ等に応える新たな調査手法の研究開発等を実施</li> <li>・定点調査について調査項目の継続的な見直し等を実施。最終年度には、これまでに実施した調査結果のとりまとめを行う。</li> </ul>
	達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで体系的かつ継続的に整備してきたデータ・情報基盤を更に有効活用していくために、今後も持続的な整備を行っていく。</li> <li>・新たなデータ・情報基盤整備については、科学技術・イノベーション基本計画の推進、フォローアップ、検討等に資するよう、デー</li> </ul>

		<p>タを継続的に取得し、オープン化・見える化を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本事業全体の目的を再認識し、関係機関の一員として、行政側への単なる研究成果の引き渡し、情報共有という段階を越えて共進化に貢献していく。</li></ul>
--	--	--